

日本文化の趣表現 凛と

結婚式をテーマにした写真コンテスト「ウェディングフォト・アワード」のプロ写真家部門で、加西市北条町古坂3、写真店経営宮本博文さん(52)の作品が最高位の金賞を受賞した。金賞は29点あり、うち県内出品作は宮本さんを含め

2点のみ。西脇市の国登録有形文化財「旧来住家住宅」(来住邸)で和装の男女がたたずむシーンをとらえ「洋装での結婚式が多い中、日本文化の素晴らしさをあらためて問い掛けたかった」と話す。

(藤村有希子)

結婚式テーマ写真コンテスト

プロ部門で金賞受賞

加西の宮本さん

同コンテストは、雑誌出版会社「プロメディア」(東京)が、写真家立木義浩さんとフリータルデザイナー桂由美さんを審査員に迎えて初開催した。プロ部門のうち、1枚の写真で競う「ベストショット部門」には499点の応募があった。審査では、撮影技術のほか、結婚の感動が十分に表現されているか、創造的で新鮮な表現はあるかが問われ、宮本さんの作品を含む29点が金賞に選ばれた。

宮本さんは、自宅近くで写真店「栄光社」(加西市北条町古坂1)を営み、「人々が一番きれいなときの演出家になりたい」と多くの結婚式で撮影してきた。

金賞受賞作は、大正期に建てられた銀行家の元邸宅で、和装の新郎と新婦が木を挟

「記憶に残る一枚を」



「5年後、10年後に子どもと見て、会話が弾むような結婚写真を手掛けたい」と話す宮本さん＝栄光社

宮本さんが西脇市の「旧来住家住宅」で撮影した金賞受賞作

んで立つ光景を写した1枚。「結婚式はある意味で、2人が親元を離れ自立を始める儀式」と、2人にあえて離れた位置に立つてもらい、凛とした雰囲気をつくり上げた。伝統的な家屋と装いが、その雰囲気を一層引き立たせている。

受賞に「立木さんから著名な人から評価され、自信がついた。これからもただの記録としてではなく、人々の記憶に残る写真を手掛けたい」と喜ぶ宮本さん。そして「この写真が、日本のスタイルや地元の財産を見直すきっかけになればうれしい」と願っている。

